

当面のスローガン

- 差別事件の糾弾闘争を強化
- 全学校で人権・同和教育を!
- 全自治体で同和行政を!
- 来年の西日本夏期講座の成功



解放新聞社山口支局

〒753-0074 山口市中央1-5-3
 TEL 083-923-2303
 FAX 083-921-1919
 ホームページ http://y-kaihou.jp
 編集発行人 松岡 広昭

山口県光青年の家

継続する継続する
結婚相談での問題

根本的な解決を

お見合いイベント 住民票を要求

山口県光青年の家の主催事業「恋愛応援団」で「年齢・未婚かどうか」の確認のため、参加者に住民票の提出を求めて

いたことが分かった。7月7日に募集チラシを見たマスコミから「不適切ではないか」と県人権対策室に指摘があり発覚

した。指摘を受け県教委は、国の通達違反の恐れがあるとして、住民票から「独身証明書」に変更するように指示した。

「恋愛応援団」とは、お見合いイベントのこと。夏にカヌーやバーベキューなど光青年の家で一泊二日のイベントであり、

今年で2年目。今年8月9〜10に開催される。現在、青年の家は、地元NPO法人が、県から指定管理を受け運営している。県から指導を受けるまで同青年の家は「独身証明書」の存在は知らなかった。住民票で独身を証明するため「全部事項証明」を発行す

ることになり、本籍や家族構成などの情報収集をしよう。これらの情報は、通産省の95年「行動指針」、00年「独身証明書」の発行などの通達に違反する。県連としては今後、萩市、宇部市社協など継続する一連の問題の根本的な解決に向けた糾弾闘争を展開していく。

問われる萩市の同和行政



戸籍の閲覧制限や「独身証明書」は解放運動で勝ち取ってきたものであり、「認識不足では済まされない」と指摘する松岡委員長(前列中央)

第2回確認会では、萩市設置の結婚相談所の問題の背景が明らかとなった。戸籍謄本を提出させたのは「独身であることを確認するため」であり、「独身証明書」の存在は知らなかった。申込書に本籍、宗教、障害の有無などを書かせたのは「一般的な履歴書等」というような項目があると思いこんでいたから、「指摘されるまで統一応募用紙の存在すら知らなかった」

宗教への介入は違憲。一部に排他的な宗教があるのではと思いが、そういう宗教の人の相談カードは、あらかじめ抜いて紹介するつもりだったとの説明。県連からは「行政が宗教に介入するのは憲法の思想・信条の自由に反

するのではないかと指摘した。また、相談員からも戸籍提出について指摘はなかった。県連からは、厳しい結婚差別の現実、身元調査の実態を踏まえて、今後、相談員へは高い人権意識が求められていることや、結婚差別の解決に向けて大きく貢献

個人の認識不足でなく体質

萩市結婚相談所が、戸籍謄本の提出や申込書に本籍、宗教、既往歴、障害の有無、離婚理由などを書かせていた問題について、県連は第2回確認会を6月23日に萩市役所でおこなった。萩市からは滝口副市長をはじめ、関係部長などが出席し、今回の結婚相談所の問題点や差別性、原因や背景などを明らかにするよう求めた。

この間の行政書士などによる戸籍謄本等大量取得事件についても「詳しいことは知らなかった」という状況。昨年、三重県内の行政書士により県内で不正取得された10件すべてが結婚調査であったことを示し、「認識不足」の一言では片づけられる問題ではないことを指摘した。

また、相談員からも戸籍提出について指摘はなかった。県連からは、厳しい結婚差別の現実、身元調査の実態を踏まえて、今後、相談員へは高い人権意識が求められていることや、結婚差別の解決に向けて大きく貢献



人権啓発事業実績の資料を見て、部落問題が皆無に近いことを指摘

なせ誰も問題に気づけなかったのか? 今回の結婚相談所の問題は、担当課や職員個人の認識不足というレベルの問題ではない。萩市の不十分過ぎる同和行政・人権行政の体質・体制だから起こった問題であることが明らかとなった。萩市は職員の人権

研修すら実施していなかった。学校や地域での人権教育・人権啓発では部落問題をテーマにした学習は皆無に近い状況であった。また、萩の部落では就労や生活面をみても厳しい現実がある。生活保護は市平均の6倍、母子家庭は2倍以上。このような厳しい部落差別の現実を直視しようとすれば、萩市行政のあり方を強く指摘した。今後、萩市の同和行政・人権行政の抜本的な見直しと、再発防止に向けた取り組みなど、糾弾闘争を展開していく。

第24回山口県人権・同和教育研究集会(案内)

日時 8月11日(月) 10:00~16:00

場所 アクティブやない 柳井市尾の上3718-16 TEL 0820-24-0081

- 【午前】全体会 記念講演 「キャリア教育と人権教育」 桑原成義(全国教訓委員長)
- 【午後】分科会
- 「『おにはそと』したいきもちはどんなきもち?」 竹部優子(宇部市立西岐波小学校)
- 「ヒロシマ修学旅行の取り組み」 廣井知浩(宇部市立藤山小学校)
- 「萩市結婚相談所事件について」 川口泰司(山口県人権啓発センター)
- 「企業における人権擁護活動」 小森孝充(マツダ(株)CSR推進部人権啓発推進グループ)